

「経済思想」思想家リスト

- トーマス・ホッブズ (Thomas Hobbes, 1588-1679) 『リヴァイアサン』 [1651]
 ジョン・ロック (John Locke, 1632-1704) 『統治二論』(『市民政府二論』) [1689]
 ダニエル・デフォー (Daniel Defoe, 1660-1731) 『ロビンソン・クルーソー』 [1719]
 バーナード・デ・マンデヴィル (Bernard de Mandeville, 1670-1733) 『蜂の寓話——私悪すなわち公益』 [1714]
 デイヴィッド・ヒューム (David Hume, 1711-1776) 『政治論集』 [1750]
 ジャン＝ジャック・ルソー (Jean-Jacques Rousseau, 1712-1778) 『人間不平等起源論』 [1755]
 アダム・スミス (Adam Smith, 1723-1790) 『国富論』 [1776]
 イマヌエル・カント (Immanuel Kant, 1724-1804) 『純粹理性批判』 [1781]
 本多利明 (ほんだ としあき, 1743-1821) 『日本思想大系 44 (本多利明・海保青陵)』
 ジェレミ・ベンサム (Jeremy Bentham, 1748-1832) 『道徳および立法の諸原理序説』 [1789]
 海保青陵 (かいほ せいりょう, 1755-1817) 『日本の名著 23 山片蟠桃 海保青陵』 源了圓
 責任編集・訳
 サン＝シモン (Claude Henri de Rouvroy, Comte de Saint-Simon, 1760-1825) 『産業階級の
 教理問答』 [1823-1824]
 ロバート・オウエン (Robert Owen, 1771-1858) 『ロバート・オウエン自伝』 [1857]
 デヴィッド・リカード (David Ricardo, 1772-1823) 『経済学および課税の原理』 [1817]
 トマス・ロバート・マルサス (Thomas Robert Malthus, 1766-1834) 『人口論』 [1798]
 ゲオルク・ヴィルヘルム・フリードリヒ・ヘーゲル (Georg Wilhelm Friedrich Hegel, 1770-1831) 『精神現象学』 [1807]
 二宮尊徳 (にのみや そんとく, 1787-1856) 『二宮翁夜話』 中公クラシックス
 ジョン・スチュアート・ミル (John Stuart Mill, 1806-1873) 『功利主義論』 [1861]
 チャールズ・ダーウィン (Charles Robert Darwin, 1809-1882) 『種の起源』 [1859]
 ピエール・ジョセフ・プルードン (Pierre Joseph Proudhon, 1809-1865) 『19世紀にお
 ける革命の理念』 [1851]
 カール・マルクス (Karl Heinrich Marx, 1818-1883) 『資本論』 [1867]
 ジョン・ラスキン (John Ruskin, 1819-1900) 『この最後の者にも』 [1860]
 フリードリヒ・エンゲルス (Friedrich Engels, 1820-1895) 『家族・私有財産・国家の起
 源』 [1884]
 ヴィルヘルム・ディルタイ (Wilhelm Christian Ludwig Dilthey, 1833-1911) 『精神科学
 序説』 [1883]
 レオン・ワルラス (Marie Esprit Léon Walras, 1834-1910) 『純粹経済学要論』 [1874-1877]
 ウィリアム・スタンレー・ジェヴォンズ (William Stanley Jevons, 1835-1882) 『経済学
 理論』 [1871]
 福澤諭吉 (ふくざわ ゆきち, 1835-1901) 『文明論之概略』 [1875]
 ヘンリー・シジウィック (Henry Sidgwick, 1838-1900) 『倫理学の諸方法』 [1874]

- グスタフ・フォン・シュモラー (Gustav von Schmoller, 1838-1917) 『社会政策と国民経済の根本問題』 [1898]
- カール・メンガー (Carl Menger, 1840-1921) 『国民経済学原理』 [1871]
- 渋沢栄一 (しぶさわ えいいち, 1840-1931) 『論語と算盤』 [1927]
- アルフレッド・マーシャル (Alfred Marshall, 1842-1924) 『経済学原理』 [1890]
- フリードリヒ・ニーチェ (Friedrich Wilhelm Nietzsche, 1844-1900) 『道徳の系譜』 [1887]
- 中江兆民 (なかえ ちょうみん, 1847-1901) 『三酔人経綸問答』 [1887]
- ヴィルフレド・パレート (Vilfredo Frederico Damaso Pareto, 1848-1923) 『一般社会学大綱』 [1917-1919]
- ベーム＝バヴェルク (Eugen von Böhm-Bawerk, 1851-1914) 『マルクス体系の終結』 [1896]
- ジークムント・フロイト (Sigmund Freud, 1856-1939) 『文明への不満』 [1930]
- ソーステイン・ヴェブレン (Thorstein Veblen, 1857-1929) 『有閑階級の理論』 [1899]
- フェルディナン・ド・ソシュール (Ferdinand de Saussure, 1857-1913) 『一般言語学講義』 [1916]
- ゲオルク・ジンメル (Georg Simmel, 1858-1918) 『貨幣の哲学』 [1900]
- エミール・デュルケーム (Émile Durkheim, 1858-1917) 『自殺論』 [1897]
- ジョン・アトキンソン・ホブソン (John Atkinson Hobson, 1858-1940) 『帝国主義論』 [1902]
- エドムント・フッサール (Edmund Gustav Albrecht Husserl, 1859-1938) 『論理学研究』 [1900-1901]
- アンリ・ベルクソン (Henri-Louis Bergson, 1859-1941) 『創造的進化』 [1907]
- シドニー・ウェッブ (Sidney James Webb, 1859-1947) 『産業民主制論』 [1897]
- シルビオ・ゲゼル (Silvio Gesell, 1862-1930) 『自由地と自由貨幣による自然的経済秩序』 [1958]
- ヴェルナー・ゾンバルト (Werner Sombart, 1863-1941) 『近代資本主義』 [1902]
- マックス・ヴェーバー (Max Weber, 1864-1920) 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 [1904-1905]
- レオナルド・ホブハウス (Leonard Trelawny Hobhouse, 1864-1929) 『社会進化と政治理論』 [1911]
- モハンダス・ガンディー (Mohandas Karamchand Gandhi, 1869-1948) 『真の独立への道』 [1910]
- ウラジーミル・イリイチ・レーニン (Влади́мир Ильи́ч Ле́нин, 1870-1924) 『帝国主義論』 [1916]
- マルセル・モース (Marcel Mauss, 1872-1950) 『社会学と人類学 I、II』 [1950]
- ヨハン・ホイジンガ (Johan Huizinga, 1872-1945) 『ホモ・ルーデンス』 [1963]
- ジョージ・エドワード・ムーア (George Edward Moore, 1873-1958) 『倫理学原理』 [1903]
- エルンスト・カッシーラー (Ernst Cassirer, 1874-1945) 『シンボル形式の哲学』 [1923-1929]
- マックス・シェラー (Max Scheler, 1874-1928) 『知識形態と社会』 [1926]
- 福田徳三 (ふくだ とくぞう, 1874-1930) 『生存権の社会政策』 [1948]
- 柳田國男 (やなぎた くにお, 1875-1962) 『柳田國男全集〈1〉産業組合・農政学・農業政策学・後狩詞記・石神問答・2補遺 農業政策』筑摩書房 [1999]

- アーサー・セシル・ピグー (Arthur Cecil Pigou, 1877-1959) 『厚生経済学』 [1920]
- 河上肇 (かわかみ はじめ, 1879-1946) 『貧乏物語』 [1917]
- ハンス・ケルゼン (Hans Kelsen, 1881-1973) 『純粹法学』 [1934]
- ルードヴィヒ・フォン・ミーゼス (Ludwig von Mises, 1881-1973) 『ヒューマン・アクション』 [1949]
- 左右田喜一郎 (そうだ きいちろう, 1881-1927) 『文化価値と極限概念』 [1922]
- ジョン・メイナード・ケインズ (John Maynard Keynes, 1883-1946) 『雇用・利子および貨幣の一般理論』 [1936]
- ヨーゼフ・シュンペーター (Joseph Alois Schumpeter, 1883-1950) 『経済発展の理論』 [1912]
- 高田保馬 (たかた やすま, 1883-1972) 『勢力論』 [1940]
- オルテガ・イ・ガセト (José Ortega y Gasset, 1883-1955) 『大衆の反逆』 [1929]
- ブロニスワフ・マリノフスキ (Bronislaw Kasper Malinowski, 1884-1942) 『西太平洋の遠洋航海者』 [1922]
- 石橋湛山 (いしばし たんざん, 1884-1973) 『石橋湛山評論集』 [1984]
- ルカーチ・ジェルジ (Georg Bernhard Lukács von Szegedin, 1885-1971) 『歴史と階級意識』 [1923]
- フランク・ナイト (Frank Hyneman Knight, 1885-1972) 『危険・不確実性および利潤』 [1921]
- カール・ポランニー (Karl Polanyi, 1886-1964) 『大転換—市場社会の形成と崩壊』 [1944]
- ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタイン (Ludwig Josef Johann Wittgenstein, 1889-1951) 『哲学探究』 [1953]
- マルティン・ハイデッガー (Martin Heidegger, 1889-1976) 『存在と時間』 [1927]
- アントニオ・グラムシ (Antonio Gramsci, 1891-1937) 『獄中ノート』 [1947-1951]
- マイケル・ポランニー (Michael Polanyi, 1891-1976) 『個人的知識』 [1958]
- カール・マンハイム (Karl Mannheim, 1893-1947) 『イデオロギーとユートピア』 [1929]
- ハロルド・ラスキ (Harold Joseph Laski, 1893-1950) 『近代国家における自由』 [1930]
- オルダス・レナード・ハクスリー (Aldous Leonard Huxley, 1894-1963) 『すばらしい新世界』 [1932]
- ジョルジュ・バタイユ (Georges Albert Maurice Victor Bataille, 1897-1962) 『呪われた部分・I・消尽』 [1949]
- ピエロ・スラッファ (Piero Sraffa, 1898-1983) 『商品による商品の生産』 [1960]
- グンナー・ミュルダール (Karl Gunnar Myrdal, 1898-1987) 『経済学説と政治的要素』 [1953]
- ヘルベルト・マルクーゼ (Herbert Marcuse, 1898-1979) 『エロスの文明』 [1955]
- フリードリヒ・フォン・ハイエク (Friedrich August von Hayek, 1899-1992) 『法と立法と自由』 [1973-1979]
- アルフレッド・シュッツ (Alfred Schütz, 1899-1959) 『社会的世界の意味構成』 [1932]
- エーリヒ・フロム (Erich Seligmann Fromm, 1900-1980) 『自由からの逃走』 [1941]
- ハンス・ゲオルク・ガダマー (Hans-Georg Gadamer, 1900-2002) 『真理と方法』 [1960]

- ジャック・ラカン (Jacques-Marie-Émile Lacan, 1901-1981) 『精神分析の四基本概念』 [1963-1964]
- カール・ポパー (Sir Karl Raimund Popper, 1902-1994) 『科学的発見の論理』 [1934]
- タルコット・パーソンズ (Talcott Parsons, 1902-1979) 『社会体系論』 [1951]
- テオドール・アドルノ (Theodor Ludwig Adorno-Wiesengrund, 1903-1969) 『啓蒙の弁証法』 [1947] (マックス・ホルクハイマーとの共著)
- ジョージ・オーウェル (George Orwell, 1903-1950) 『1984』 [1949]
- ジョン・フォン・ノイマン (John von Neumann, 1903-1957) 『ゲームの理論と経済行動』 [1944]
- ジョン・ヒックス (John Richard Hicks, 1904-1989) 『価値と資本』 [1939]
- ジャン=ポール・サルトル (Jean-Paul Charles Aymard Sartre, 1905-1980) 『存在と無』 [1943]
- アイン・ランド (Ayn Rand, 1905-1982) 『肩をすくめるアトラス』 [1957]
- 大河内一男 (おおこうち かずお, 1905-1984) 『社会政策の基本問題』 [1939]
- ハンナ・アーレント (Hannah Arendt, 1906-1975) 『人間の条件』 [1958]
- ニコラス・ジョージェスク=レーゲン (Nicolas Georgescu-Roegen, 1906-1994) 『エントロピー法則と経済過程』 [1971]
- 大塚久雄 (おおつか ひさお, 1907-1996) 『近代化の人間の基礎』 [1968]
- メルロー=ポンティ (Maurice Merleau-Ponty, 1908-1961) 『知覚の現象学』 [1945]
- ジョン・ケネス・ガルブレith (John Kenneth Galbraith, 1908-2006) 『ゆたかな社会』 [1958]
- ウィラード・クワイン (Willard van Orman Quine, 1908-2000) 『論理的観点から』 [1953]
- クロード・レヴィ=ストロース (Claude Lévi-Strauss, 1908-2009) 『野生の思考』 [1962]
- アイザイア・バーリン (Isaiah Berlin 1909-1997) 『自由論』 [1969]
- ケネス・ボールディング (Kenneth Ewart Boulding, 1910-1993) 『経済学を超えて』 [1968]
- ミルトン・フリードマン (Milton Friedman, 1912-2006) 『選択の自由』 [1975] (ローズ・フリードマンとの共著)
- ロジェ・カイヨワ (Roger Caillois, 1913-1978) 『遊びと人間』 [1958]
- ポール・サミュエルソン (Paul Anthony Samuelson, 1915-2009) 『経済分析の基礎』 [1947]
- ウォルト・ロストウ (Walt Whitman Rostow, 1916-2003) 『経済成長の諸段階』 [1960]
- ハーバート・サイモン (Herbert Alexander Simon, 1916-2001) 『システムの科学』 [1969]
- ピーター・ブラウ (Peter Michael Blau, 1918-2002) 『交換と権力』 [1964]
- ルイ・アルチュセール (Louis Pierre Althusser, 1918-1990) 『資本論を読む』 [1965]
- ジェームズ・ブキャナン (James McGill Buchanan Jr., 1919-2013) 『公共選択の理論』 [1962] (ゴードン・タロックとの共著)
- ジョン・ロールズ (John Rawls, 1921-2002) 『正義論』 [1971]
- トーマス・クーン (Thomas Samuel Kuhn, 1922-1996) 『科学革命の構造』 [1962]
- イムレ・ラカトシュ (Imre Lakatos, 1922-1974) 『方法の擁護』 [1978]
- 森嶋通夫 (もりしま みちお, 1923-2004) 『マルクスの経済学——価値と成長の二重の理論』 [1974]

- ポール・ファイヤアーベント (Paul Karl Feyerabend, 1924-1994) 『方法への挑戦』 [1975]
ジル・ドゥルーズ (Gilles Deleuze, 1925-1995) 『差異と反復』 [1968]
イヴァン・イリイチ (Ivan Illich, 1926-2002) 『シャドウ・ワーク』 [1981]
ミシェル・フーコー (Michel Foucault, 1926-1984) 『言葉と物』 [1966]
ニクラス・ルーマン (Niklas Luhmann, 1927-1998) 『社会システム理論』 [1987]
チェ・ゲバラ (Ernesto Rafael Guevara de la Serna, 1928-1967) 『ゲバラ日記』 [1968]
宇沢弘文 (うざわ ひろふみ, 1928-) 『自動車の社会的費用』 [1974]
ユルゲン・ハーバーマス (Jürgen Habermas, 1929-) 『コミュニケーション的行為の理論』
[1981]
アラスデア・マッキンタイア (Alasdair MacIntyre, 1929-) 『美徳なき時代』 [1981]
ジャン・ボードリヤール (Jean Baudrillard, 1929-2007) 『消費社会の神話と構造』 [1979]
ロナルド・ドウォーキン (Ronald Dworkin, 1931-2013) 『法の帝国』 [1986]
リチャード・ローティ (Richard Rorty, 1931-2007) 『哲学と自然の鏡』 [1979]
チャールズ・テイラー (Charles Margrave Taylor, 1931-) 『自我の源泉』 [1989]
村上泰亮 (むらかみ やすすけ, 1931-1993) 『反古典の政治経済学』 [1992]
アマルティア・セン (Amartya Sen, 1933-) 『正義のアイディア』 [2009]
廣松渉 (ひろまつ わたる, 1933-1994) 『世界の共同主観的存在構造』 [1972]
マイケル・ウォルツァー (Michael Walzer, 1935-) 『正義の領分』 [1983]
ロバート・ノージック (Robert Nozick, 1938-2002) 『アナーキー・国家・ユートピア』 [1974]